

第7回全日本民医連認知症懇話会実行委員会結成によせて

実行委員長 宮澤 由美

皆さん、実行委員をお引き受け頂きありがとうございます。

実行委員会結成に先立ちまして、これまでの経緯と第6回の山形での懇話会の概要、私たちが主管する第7回の懇話会への抱負をのべて、ご挨拶とさせていただきます。

認知症懇話会は約6年前に始まり次回で7回目となります。当時福岡民医連のみさき病院長であった山田智先生の構想に基づき、第1回目は田中先生を実行委員長に福岡で開かれ、交流会はなんと福岡市内の居酒屋でした。それでも集まった人は熱く語り、以降は北海道、大阪、宮城、東京、山形と続いてきました。全日本民医連の自主的研究会の中では最近立ち上がった部類に入り、介護福祉部を中心に医師、看護師、介護士、ソーシャルワーカーほかの多職種の参加によって成り立ってきました。代表世話人の山田智先生、他、前期の全日本民医連理事である宮城の今田先生、大阪でクリニックの所長をしながら多彩な活動をされている池田先生、認知症専門看護師の阿部育美さんなど多彩な人材を骨格に年に1回全国レベルで経験を交流し、民医連らしい認知症診療・介護の在り方をさぐる貴重な場として発展しています。

第6回の山形での懇話会は鶴岡協立病院の堀内隆三先生を実行委員長に、山形虹の会の井田智さんを事務局長に行われました。中心メンバーの懇話会成功への固い決意は、「はたして、全国から山形へそんなに多くの人に来てくれるのか」「赤字をつくったらその補填はどうするんだ、誰が責任をとるんだ」という県連内の厳しい議論の中で生まれました。「参加者の関心を集める企画を考え、全国の民医連の仲間が結集できる場とアピールすれば、必ず仲間達は来てくれる。何が何でも成功させたい」という願いを込めて懇話会は始まりました。当日は300名を超す参加者、講師も一緒に参加して、明日の認知症診療について語った交流会、協同組織の取り組みや「認知症のひとと家族の会」の勝田さんも交えて開いたシンポジウムと大成功に終わりました。随所に山形へ来てくれたことを歓迎する心配りがあり、またシンポジウムの最後では山田先生が涙を見せるという一幕もありました。講演は人生の終末期を看取る看護をいかに教育するかという内容で「認知症高齢者の End of Life を考える」と題し、青梅慶友病院・看護介護開発室長の桑田美代子氏、自然療法などの多彩な内容の展開で「ふらて会グループの理念・戦力と実践～障害に渡る健康の支援とまちづくり」と題し、西野病院長の西野憲史先生により行われました。シンポジウムは「認知症の人を地域で支えるまちづくり」がテーマでした。情勢を交えた山田先生の報告、認知症の人と家族の会の勝田登志子さんの長年の活動を踏まえた報告、そして庄内医療生協

組織部長と理事の方の「ちよさんの家」などのたまり場づくりの活動報告を受け、地域で支えることについて議論しました。ちよさんの家という組合員さんの空き家を利用したたまり場に認知症の人も通うという話に今日的な意義を感じましたし、山形の地域にねぎした取り組みにはただただ感心し、協同組織の人が多く参加され心強く思いました。

交流会はホテルで着席の宴席が持てるという地方の強みを十分に生かして、また講師の方も交えて楽しい時間を過ごしました。花笠音頭を全員で踊るという企画も好評でした。

さて、第7回の懇話会を神奈川で行う意義です。2012年厚労省から発表されたようにこれからは「認知症 800 万人」時代を迎えます。そして、高齢化率がこれからもっとも急激に上昇するのは東京都、千葉県、埼玉県、神奈川県、南関東だと言われています。神奈川で懇話会を行うことにより、これら1都3県からの参加者も多く集め、ぜひこれからの首都圏の認知症に対する取り組みの論議を深めたいと思います。懇話会に引き続き、同会場で関甲信地協主催の「もの忘れ外来セミナー」も予定されています。「すべての民医連診療所で物忘れ外来を」というスローガンでの企画ですので、多数の診療所からの参加があるものと思われ、後継企画として期待できます。

また神奈川民医連にとっては、懇話会実行委員会を組織することで、「認知症」をテーマにした新たな交流ができることとなります。県連内の交流が活発化し、それぞれの所属する医療機関や事業所での「認知症」に対する取り組みが旺盛になることを期待します。県連内からの多くの職員が懇話会に参加することにより、職員の成長と啓発が得られ、その後の診療・介護事業の発展に寄与することを期待します。

これから2025年に向かって高齢化が進みますが、問題は高齢化だけでなく、単身化、貧困化も進むことです。これからの日本社会は単身で貧しい高齢者が増え、その人たちが認知症になっていくことでさらに困難を抱えていきます。そして、私達自身も高齢者の仲間入りをしていきますので決して他人ごとではありません。私達民医連職員に求められるのは、そういう人々とともに歩み、ともに助け合い、ともに闘うことです。目の前の困難に果敢に挑み、悪政と対決し、多くの人や団体と連帯して民医連はその存在意義を発揮し、伸びてきました。「日本の超高齢社会」の課題の一つである「認知症」に対しても全国の仲間と多くの知恵と工夫を共有し、ユニークな取り組みをするならば、決して恐れることなく、有意義な活動ができ、社会の成熟と発展に寄与できるものと考えます。「第7回全日本民医連認知症懇話会」がより多くの全国の仲間の結集の場となり、認知症に苦しむ当事者や家族の人に希望をもたらす診療や介護ができるような夢を語れる場となりますことを祈念いたしまして、実行委員会結成の御挨拶といたします。ともに頑張りましょう。

「第7回全日本民医連認知症懇話会 in Kanagawa」実行委員会委員長
宮澤 由美